

# 神田通信

## ●歌稿の送り先について●

今年度中（2021.3.10締切分まで）の月々の歌稿の送り先は、

263 | 千葉市稲毛区稲毛東  
0031

6 | 10 | 2 | 1202

関谷方 久我田鶴子

です。

新型コロナウイルスによる状況が落ち着くまで本社に集まって作業することを控えています。

よろしくお願いいたします。

◆十月三十一日、柏原さんの計報に接した。澄み切った青空を見上げた。鎌倉の方角に向かって手を合わせご冥福を祈った。

（藤森）

◆修学旅行の引率で鎌倉に行く話をした数日後、柏原さんから届いた手紙には東北新幹線出口から横須賀線ホームまでの道順が丁寧に書かれていた。優しいお心遣いが忘れられない。

（藤田）

◆謹賀新年。二〇二〇年はコロナウイルスに明け暮れた。この間に頬のホクロを切除したが、マスクのお蔭で傷口を隠せた。ささやかなマスクの効用か。

（高尾）

◆小四の子が歌う「ラバースコンチェルト」（四拍子）。うちの電気ポットの曲、パッハのメヌエット（三拍子）を編曲したものと知り、びっくり。（玉井）

◆本社の隣のビルに足場が組まれ、またたく間に解体された。更地になったと思ったら新しく建築がはじまった。何が建つのだろう。興味津々。

（磯田）

◆近くの神社の銀杏、黄葉が今見事だ。香川先生のお墓のある西福寺にも銀杏の大木が。長らくご無沙汰している。先生、も

う散り始めていますか。（楢垣）

◆野口聡一さんが、宇宙へ。久しぶりの爽快なニュースでした。

（木村）

◆十を数えるのに、関東では「だるまさんがころんだ」という。関西では「ほんさんがへをこいた」という。地域差というのは面白い。

（成彦）

◆ドラマ「子連れ信兵衛」では左とん平と中村嘉律雄を見るのが出来る。この二人、そこに居るだけで、ある雰囲気を感じます。

（三好）

◆11月号の「コロナ禍の中で働く現場から」の特集を何度も読み返す。新年となっても先の見えぬ状況に、これはいつまで続くのかと。

（和美）

◆西伊豆の黄金崎で馬ロックという巨岩を見ました。岩に砕ける白波もひさびさの景でした。

（茂木）

◆茂木さんの神田通信と共に送られてきた写真は、群青色の海。馬ロックは、まさに馬の顔。騒

まであって。石路の花、銀杏の黄葉、早生蜜柑。それぞれの黄色が元気づけてくれる日々。

◆十一月二日放送のNHK「ラジオ深夜便」で桃原邑子の歌が紹介された。一ヶ月延びた放送日だったが多くの方々が聴いてくださったようだ。

◆米本浩二著『魂の邂逅 石牟礼道子と渡辺京二』の36ページに桃原邑子が登場すると教えてくれた人がいた。桃原邑子が書いたという書簡体の「石牟礼道子論」船田さんに送ってもらった。

◆一月号入稿中の十一月半ば過ぎ、新型コロナウイルスの感染者数は日々更新を続けている。この状況がいつまで続くかわからない中で、地中海創刊70周年（二〇二二年）に向けての準備を始めている。前を向いて。

◆砂子屋書房のHP、一首鑑賞「日々のクオリア」を永井祐氏と一日おきに一年間担当することになりました。お読みいただけること幸いです。（久我）

# クリップ

## ■入会届・退会届について

葉書に、①氏名(ふりがな)

②住所 ③電話番号 ④生年月

日 ⑤性別 ⑥送本開始(停止)

月を記入の上、本社に提出して

ください。退会届の場合は、①

②⑥の記入をお願いします。急

な送本停止には対応しきれませ

るので、ご了承ください。

## ■会費納入について

二〇二〇年度分の会費を未納

の方は納入してください。会費

は、半年分、または一年分を前

納することになっています。

各欄の月額は次の通りです。

・ A 欄 二〇〇〇円

・ B 欄 一五〇〇円

・ C 欄 一〇〇〇円

・ 購読 一〇〇〇円

二十歳未満の学生は五〇〇円

です。(若い人たちは是非ご勧

誘ください)

00160・4・179569 地中海社

振替用紙の連絡欄に内訳をお書きください。支社・グループでまとめて納入していただける幸いです。

## ■原稿用紙の申し込みについて

一冊一五〇円。それに送料が

かかりますので、まとめてのお

申し込みがお勧めです。本社、

または担当の茂木斌までご連絡

ください。こちらから発送する

際に振込用紙を同封いたします

ので、代金はそれを使って振り

込んでください。

## ■本誌の追加注文について

本社に葉書にてご連絡くださ

い。代金は一冊一〇〇〇円。会

費と同じ「地中海社」の口座に

お願いします。

## ■見本誌について

勧誘用に見本誌をお求めにな

る場合は、送料のみご負担いた

だきます。二冊までなら二〇〇

円分の切手を同封してお申し込

みください。

## ■歌集を出版する際には

地中海叢書番号をご請求くだ

さい。葉書に住所氏名の他に、

①歌集名(未定の場合には仮題でも) ②発行時期 ③版元を記入して本社宛に。折り返し、登録した叢書番号と事務手続きの文書をお送りいたします。

出版後には本社保管用に一冊

お送りください。

## ■九曜書林は、比較的安価な歌

集出版を考えていて、自分では

どうしていいか分からず困って

いる方のために立ち上げました。

印刷・製本は、本誌の印刷をし

ている京成社にお願いしていま

す。二、三〇万円くらいでも予

算に応じた出版が可能です。ま

ずは、編集部にご相談ください。

## ■桃原色子歌集

『沖繩〈新装版〉』注文受付

ご注文を受け付けています。

一冊2000円(税と送料は桃

原氏負担)です。六花書林から

の出版ですが、代金の振り替え

は九曜書林の口座を使わせてい

たきます。口座への代金納入

をもってご注文とさせていただきます。

冊数・氏名を明記の上、

左の口座へお願いします。

00180・2・790055 九曜書林  
本社よりスマートレターにて  
お送りいたします。

## ■本社への連絡について

葉書か封書でお願いします。

電話はありますが、常駐する者

がおりませんので、誰かが本社

で作業している時にしか通じま

せん。急を要する場合には、

・藤森：☎ 090-8301-6423

・久我：☎ & FAX 043-241-7925

までご連絡ください。

## ■本社の窓口は、いつでも開い

ています。どんなことでも遠慮

なくご相談ください。歌集の出

版につきましても、予算や希

望に応じてできる限りの対応を

させていただきます。ご意見そ

の他もどうぞお寄せください。



## 旬の野菜

石井悠子

十一月二十二日(世間は、いい夫婦の日)。大相撲十一月場所ので最頂の貴景勝が優勝。ソフトバンクがリードしている日本シリーズを呑気に見ていたら、いきなりスマホとテレビから緊急地震速報。たぶん震度4、正解でした。福島県民は、震度速報が出る前に、震度を言い当てる。これ、「福島あるある」です。

食べるの大好きな私が、今夢中なのは「郡山ブランド野菜」です。京野菜など、全国には伝統野菜があるのに、郡山にはない。ないなら一から作ろう。そんな志を持った生産者が集まって誕生しました。初めて食べたのは御前人参です。その甘さは驚きました。今認定されている郡山ブランド野菜は十三種類、名前がまたいいのです。めんげ芋・あこや姫(かぶ)・佐助ナス・冬甘菜(キャベツ)・緑の王子(ほうれんそう)。御前人参は、静岡前の伝説に因んでいます。めんげ芋の「めんげ」はかわいという方言。生で食べてもさすけナスという「さすけない」は、大丈夫、問題ないという意味。綾瀬はるかさんが大河ドラマで、よく「さすけねえ」と言っていました。平成二十三年の原発事故は、農家にも郡山ブランド野菜にも打撃を与えました。信頼を取り戻すためにいろいろな取り組みをし、現在に至ります。冬野菜のおいしい季節、福島郷土料理、イカにんじんを作りましょう。

震災と原発事故から、もうすぐ十年。汚染水の海洋放出など、問題はまだまだあります。魚の出荷制限はすべて解除されていますが、それはどうなってしまうのでしょうか。

## ■A欄推薦について

二〇二一年度、A欄に推薦する会員のいる支社・グループ長は、三月末日までに小野雅子宛に資料をお送りください。B欄で三年以上経過していることが必要条件です。

- ・ 記入事項：①氏名 ②生年月日 ③職業
- ④入社年月 ⑤歌歴(B欄になった年月)
- ⑥短歌に関わる業績など

運営連絡会で承認されれば、十月号からA欄会員となります。

## ■支社消息

・ 樺グループは解散しました。

## ■新会員紹介

天野純代(虹)・野村房代(渚)・山村美智子(習志野)  
中澤啓子(信濃)・長尾さち(日の伴)・宮前英明(春日)  
米原千秋(岡山)・中村里美(熊本)・樋口淳一郎(海)

\*2020年度版「地中海社名簿」以後の新会員の皆さんです。

## ■「写真歌合わせ」の写真募集します!

「写真歌合わせ」の課題写真を募集します。ご自身が撮影された写真で「これぞ!」と思われるものをお送りください。送り先は、E-mail [ttt2317s@outlook.jp](mailto:ttt2317s@outlook.jp) (田土成彦) です。締切は、一月末日。奮ってご応募ください。応募いただいた写真の中から二作品を、次の「写真歌合わせ」で使わせていただきます。

(編集部)

## ◆音 十月号 発行人 内藤 明

通巻第四五八号 総頁数四八頁  
\*「コロナ」という題詠(上) 黒羽 泉

感染拡大と歩を合わせる形で、「コロナ」を詠った歌が増えているとして、総合各誌や「音」に詠まれた歌数などのほかに、テーマごとに分類して歌を紹介し、評している。  
(手、手洗い)

・幾度目の手洗いだろう鱗粉を落とされた翅は二度と飛べない 遠藤 由季  
(エッセンシャル・ワーク)

・ウイルスを配るがごとく避けられて郵便配達の子は戸口にて 佐伯 裕子  
(不要不急)

・引き波が根こそぎ持つてゆくやうにキャンセルが次のキャンセルを呼ぶ

河野 美沙子

\*鳥海昭子と(ラジオ深夜便)斎藤 千代 NHKの「ラジオ深夜便」で人気を呼んでいた「今日の誕生日の花と花言葉」のエンディングを飾る短歌は『誕生日の花と花ことば』にちなむものだ。その著者で二〇〇五年に亡くなられた鳥海昭子を紹介している。第二九回現代歌人協会賞を受賞した歌集

『花いちもんめ』をはじめ、四冊の歌集やエッセイを残した。彼女の「波乱万丈の人生の中で詠まれた短歌の数々は現代の社会にも無言のメッセージを与えてくれる」と

ある。

・母におびえる子よ 子におびえる母よ つのふりあげる蝸牛(かたむし)

◆好日 十月号 発行人 好日編集委員会

通巻第八二六号 総頁数五六頁  
\*今月の一首 橋田 政子

俳句グループの代表である坪内捻典の歌集『雲の寄る日』の一首を挙げる。

・押し開く窓だといいな わたくしの心に小さな窓があるなら

最近の  
歌誌より

音

好日  
まひる野

(藤田)

魚村晋太郎の「作者のこのしなやかな軽みは、『らしさ』を拒む自由な生き方から来ているに違いない」という評を紹介し、他に七首を挙げている。そのなかの一首。  
・あの人はチェロの奏者か切り株に腰をおろして雲を見ている

\*歌壇作品評

「『古い』を日々身近に感じる今、高野公彦の作品に心が留まる」として、総合各誌に発表された高野作品を取り上げている。  
・老いびとの一日の軽さ譬へれば金魚すく

ひの白紙(しろがみ)の円

「悲壮感ではなく、むしろ淡々と自分の現実を見ているのであろう。」と評する。

◆まひる野 十月号 編集人 大下 一真

通巻八八二号 総頁一〇〇頁  
\*近代短歌展望 後藤 由紀恵

「世界を切り開く」と題した加藤孝男著『与謝野晶子をつくった男』の書評である。本書は、「歌壇」誌に連載された「鉄幹・晶子とその時代」に加筆し改題したものであるという。鉄幹の子ども時代から晶子の『みだれ髪』を刊行する二十八歳までの怒濤の人生が丁寧に掘り下げられ、「紆余曲折の人生で、エネルギーな鉄幹の姿が見えてきて大変驚いた」とある。『みだれ髪』の強烈な光の影に鉄幹の存在は隠れているように見えるが、その光を誕生させたのは鉄幹の新しい和歌への強い志向である。

『みだれ髪』は晶子の歌集であると同時に、鉄幹が目指した新しい世界でもあることを本書は教えてくれる」と結ぶ。

\*升田隆雄歌集「昼の銀河」批評

作者は緩和ケア医療現場の医師。評者中根誠は、「深い精神性がにじむ」ところに本歌集の魅力があるとする。

・過ぎし日の虹を渡るやモルヒネの持続注射にまどろむひとは